

# (仮称)小柴貯油施設跡地公園 基本計画

公園種別：広域公園 / 面積：約55.6ha (旧小柴貯油施設と小柴埼緑道の一部などを一体的に整備)

## 公園計画の基本テーマ

### 「緑からつくり育む環境体感公園」

森と海に抱かれた自然空間を、市民が憩い、集い、楽しむとともに、みどりアップや生物多様性、地球環境の大切さを、市民が感じ、学び、育てる緑の拠点とします。また、これまでの計画等を踏まえ、「緑」、「環境」、「歴史と景観」の3つのつながりに重点をおいた計画とします。

## ゾーニング (右図参照)

現在の地形等をもとに大きく4つのエリアに分けてゾーニングを設定し、エリアごとに整備を進めます。

期	エリア	エリアの考え方	ゾーニング
第1期	緑の広場空間創造エリア (約13.0ha)	平坦な地形を生かした広場を中心とした空間とし、緑花も含めた新たな緑の創造を図ります。また、管理センターや駐車場など管理施設を設置します。	草地広場ゾーン
			センター広場ゾーン
			多目的レクリエーション広場ゾーン
			駐車場ゾーン
第2期	里山空間再生エリア (約19.5ha)	柴シーサイドファームに隣接し、ホタルなどが生息する細長い谷戸地形です。生物の生息環境の再生や市民協働による樹林地の保全などを行いながら、農体験もできる里地里山空間の再生を目指します。	小柴埼緑道の一体整備
			谷戸空間再生ゾーン
	自然環境保全エリア (約7.5ha)	旧来の樹林地など自然環境の保全を基本とします。	自然環境保全ゾーン
第3期	活動・体験・学習エリア (約15.6ha)	地下タンクなどの処理を行いながら、緑の再生を図るとともに、緑や環境に係る様々な活動や体験、学習の場を目指します。	緑化・環境体験・学習ゾーン タンク広場ゾーン

## 主な課題への対応方針

### 貯油タンクの処理

敷地内には大型、小型の地下タンクや地上タンクなどがあり、調査によって安全性を確認しながら次の方向性で具体的な方法を検討します。

- 大型地下タンク：躯体は撤去せず、他の公園緑地工事等で発生した土で埋め戻して、広場等の利用を基本とし、一部を歴史的遺構として保全活用
- 小型地下タンク：躯体は撤去せず、太陽光発電の設置や敷地内の発生土の処理等に活用
- 地上タンク：一部をモニュメントや壁面緑化等の見本園、拠点施設として活用し、残りは撤去

### 土壌汚染対策

- 国の調査により、タンクや地下トンネル、パイプラインの周辺を中心に鉛等の土壌汚染が確認されており、モニタリング調査を実施しています。
- 土壌汚染対策法等に基づいて、盛土や土の入れ替え、立入禁止などの対策を行い、入れ替えた土は敷地内の地下タンクを活用して処理します。
- 地下水については、モニタリング調査による監視体制を継続します。

### 防災への配慮

- 広域避難場所を想定して、災害時に活用が可能な広場を確保します。
- かまどベンチや非常用トイレなどを設けるほか、管理センターなどの建物や照明、太陽光発電などの施設が災害時にも活用できるよう工夫します。

### 動線計画

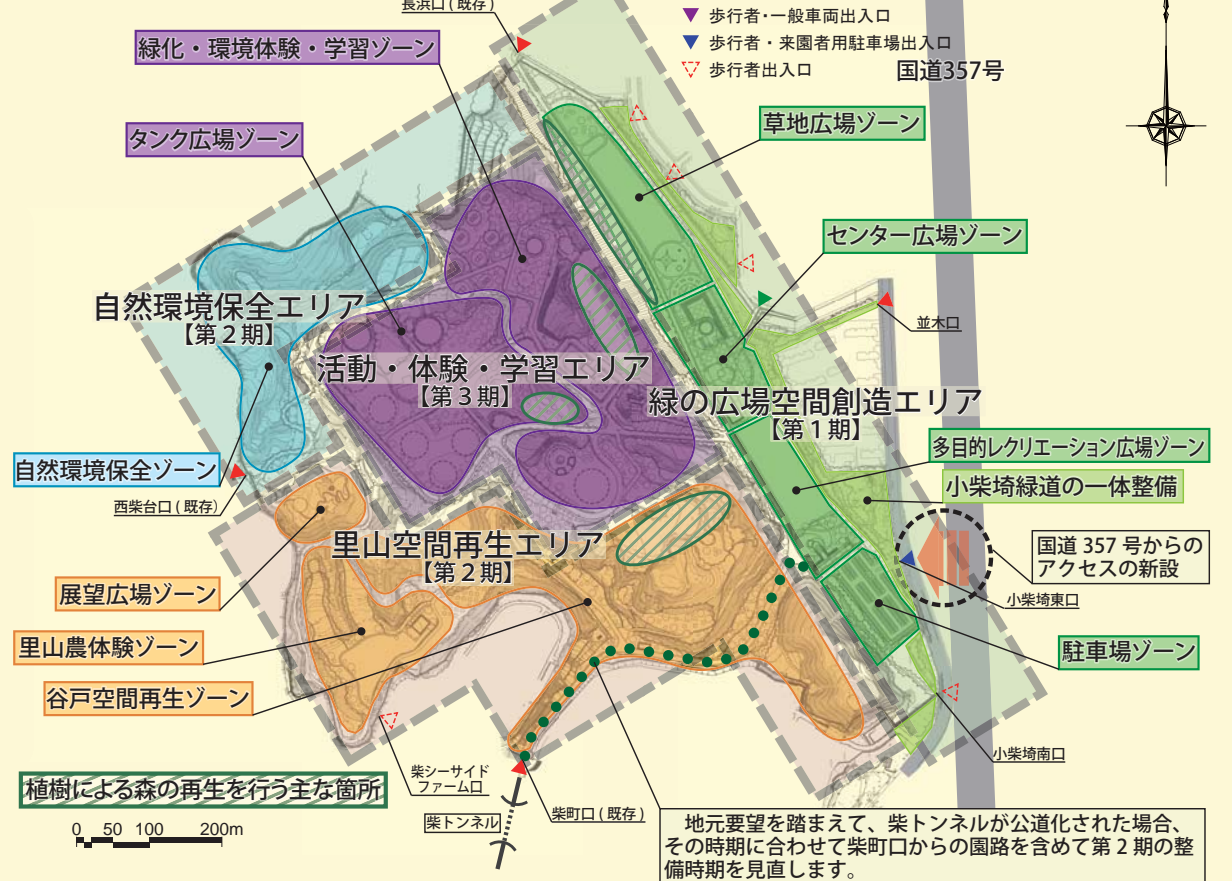
- 一般車両動線として、国道357号から駐車場へと至るアクセスを新設することとし、具体的な位置は、今後、関係機関等と協議していきます。
- 歩行者動線は、既存ゲートを活用するほか、柴シーサイドファーム口などの出入口や、小柴埼緑道と一体利用できる園路を設置します。
- 園路については、通常時の公園利用だけでなく、災害時の利活用や工事期間中の利用者の安全確保等を想定した規模や構造等を検討していきます。

## 基本計画図

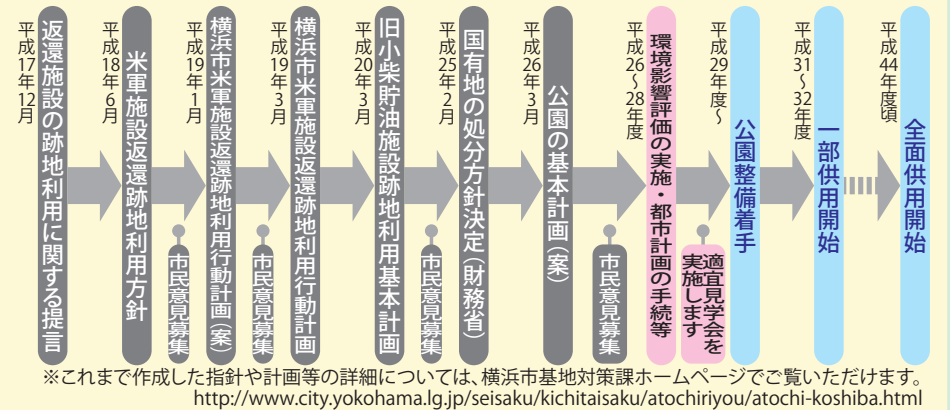


緑の広場空間創造エリア、活動、体験、学習エリアについて、植樹の際には花木などにより花を楽しめるよう工夫します。公園内の施設では、太陽光発電などの自然エネルギーを活用します。

## ゾーニング図



## これまでの経緯と今後の進め方 (予定)



## 想定整備スケジュール

